

厳島神社

(淡路島弁財天)



社会福祉法人
ひょうご聴覚障害者
福祉事業協会

<発行>
特別養護老人ホーム
淡路ふくろうの郷
広報委員会

〒656-0002
洲本市中川原町中川原28番地1
TEL: 0799-25-8550
FAX: 0799-25-8551

ホームページリニューアルしましたので、順次更新していきますので、よろしくお願ひ致します。



辰年 初詣

1月8日、12日に洲本市の中央に鎮座する厳島神社へ初詣に行つてまいりました。御祭神は生命の源、水・海の神様「市杵島姫命」・弁天さん”の社殿に、12日は午前、午後に分けて行くことができました。

久しぶりに外に行かれる入居者さまも多く、すぐ道中は嬉しそうなお様子で話される方もいらつしやいました。車中では入居者さまが昔を思い出しながら、「ここに消防署あったなー」とか、「こんな道初めてみたわー」、とか懐かしみながら、様々な話をされておりました。

8日は到着してから、入居者さまの代表として夜久さんがお参りしてくださいってくださいました。照れながら最後までお参りしてくださいながら、嬉しそうな顔をされているのが

元日のだんらんを直撃された能登半島地震の被災者の皆さま、困難な復旧作業が続く被災地に心よりお見舞いを申し上げます。激震から1か月が過ぎ、余震と厳寒の中で被災状況や避難所の様子を知らずに連れて、これから先に続く復興への道程を思うと阪神大震災での苦難が記憶の奥から蘇ってきました。能登の住民が暮らしてや平安時代から続いてきた輪島の朝市、農漁業の復活を！私たちにできる支援の輪「能登！がっぱになれま！(頑張れ)」を広げていきましょう。

印象的でした。久々に皆さまと外出することが楽しかったようで、初詣に行かれた花木ユニットの入居者さまが戻ってこられてすぐに、他の入居者さまに色々嬉しそうに話されました。初詣の次の日も職員に「昨日の初詣は楽しかった。久しぶりに外に出て良かった。」と話してくれました。そういったのを聞いたり、見たりして、やってよかったなと思ったりでした。コロナがさらに落ち着き、今後、外出できる機会が増えたらいいなあと思います。入居者さまが楽しんでもらえるように外出できるイベントもあればいいな、と感じた初詣でした。

(花木ユニット 實生 貴之)



料理講座〜大根祭り

淡路ふくろうの郷では、毎月第4金曜日に入居者の皆さまと昼食やおやつを一緒に作る「料理講座」を実施しています。ご自宅で料理されていた時の経験を生かして慣れた手つきで調理を手伝ってくださる方、料理の経験はないと言いながら職員と一緒に野菜を切ったり生地をこねたりと頑張ってくださいる方と様々です。

毎年1月は大根まつりと称し、地域交流会の皆さまにご協力いただきながらたくさんのおでんを作って食べるのが恒例です。コロナ禍になつてからは職員と入居者のみで行っており、今年は久々に地域交流会の皆さまと行える予定でしたが、新型コロナウイルスとインフルエンザの感染が拡大してきてしまったため、あえなく今年も入居者と職員のみで行いました。



▲味の染みたおでんが完成



大根や練り物の下準備をしたり、卵の殻をむいたり、行程がとても多いおでんですが、頑張った甲斐があり、普段食の細かい入居者の方も完食するほどのおいしさでした。コロナ禍は終息に向かっていますが、まだまだ油断はできない状況です。来年こそは地域交流会の皆さまと一緒に美味しいおでんを作りたいと願ってやみません。

(管理栄養士 秦奈津子)

★手話講座★

～手を動かし楽しもう～

1月の手話講座は、人差し指を使う手話表現は、どんな表現があるかなと、入居者の皆さんに考えて頂きました。「お正月・辰・行く・手話・おかしい・なに?等」沢山の答えが返ってきました。その後、皆さんと一緒に手話表現をしました。いつも庄崎職員と一緒に手話表現からの手話を、入居者と一緒に手を動かし楽しめました。

ふくろう手話講座は、設立時から地域交流会主催で開催されています。コロナ禍になつてから、施設への出入りができなくなり、職員と入居者さまと一緒に手話表現をしながら楽しんでいただいています。



▶現在の手話講座の様子



▲コロナ禍前の様子。地域の方とのおしゃべりも楽しみの一つでした

設立時からコロナ禍になるまでは、地域の方々が手話を学ぶために、第2・第4土曜日の月2回開催していました。ふくろうふれあい祭りや、地域の方々とのふれあい(案山子作り・そうめん流し・しめ縄作りなど)の為に、手話でコミュニケーションを取れるように、入居者の皆さんが指導者になり、地域の方々に手話を教えていました。右の写真を見て頂ければ分かるように、入居者の頭の体操にもなり、笑顔もあり生き生きとしてるのが分かります。楽しそうです。職員は、見守りながら困っていればサポートをしたり、進行役を担当しました。難聴の入居者さまも、「ぼけ防止になっていいわ」と、当時話されていました。いつかまた、外部の方との交流が出来るのを祈願して、一緒に学べたら良いですね。

(生活援助係 伊達美紀)

ふくろう物語 小林令子様



ふくろうの郷ロングショールトを経て令和5年4月2日に星ユニットに入所されています。

昭和8年4月12日京都市左京区一条寺で和田家の3兄弟(兄、兄、小林令子さま)の末っ子として誕生されました。現在90歳です。

お父さまは眼科医をされていた。

日本で最初のろう学校である京都府立ろう学校を五

歳から高校部まで通われ、明るい人柄のため友達も多かったそうです。

【大正15年創立「京都市立口話幼稚園」(昭和3年「京都市立口話学園」と改称)昭和7年に京都府立ろう学校になる。】

夫婦で洋裁店を経営

7歳年上の小林正治さまと出会われ25歳でご結婚され京都市下京区にてご夫婦で洋裁店を営まれていました。ご主人が背広の仕立てをされ、令子さまは縫物がお得意でご主人を手伝わっていました。

27歳で娘さまがお生まれになりました。

ご家族でドライブやハイキングなどによくお出かけされていたそうです。娘さまがご結婚された時には、一緒にシンガポールへご旅行に出掛けられています。

【正治さまが免許を取得される時、有志を集め京都の通

訳を探されたようですが、通訳制度が無かった為、東京ろう学校の先生に通訳をお願いして免許を取得されたそうです。】

娘さまからのお話

娘さまにとって令子さまは「とてもユーモアがあり明るくて母親と言うより友達のような関係だった。」とお聞きしました。

ご主人さまが70歳で亡くなられたあと、令子さまは手話サークルに参加され交流をされています。

令子さまの作るフレンチトーストがとてもおいしいと評判になり、皆さまに振る舞われていたそうです。

「戦争で(当時小学生)真っ暗な防空壕に家族で隠れた時、周りの人たちが何を言っているのか分からない私に母が手のひらに文字を書いて教えてくれました。」と令子さまのつらい思い出を教えてくださいました。

義援金を寄付しました

令和6年能登半島地震により被災された方々を支援するため、淡路ふくろうの郷自治会から2万円を寄付することになりました。



令子さまのお気持ちを汲み取りながら穏やかに過ごして頂けるように支援をして行きたいと思えます。(星海ユニット副主任 小椋滝美)

2月 ふくろうの暮らし

- 2/3 (土) 節分レク
- 2/5 (月) ふくろう理髪店
節分巻きずしレク
- 2/6 (火) ふくろう大学演劇講座
- 2/7 (水) 誕生日会
- 2/17 (土) ふくろう大学書道講座
- 2/20 (火) ふくろう大学絵手紙講座
- 2/21 (水) 手話講座
- 2/23 (金) ふくろう大学 料理講座



**淡路聴覚障害者
センター
センター便り**

登録通訳者研修会
(兵通研地域班懇談会)

1月10日(水) 兵庫手話通訳問題研究会と合同で登録通訳者研修会を開催しました。

当日は兵通研から運営委員の方が来られ、7月に開催された向日市専任通訳者、岩谷誠司氏の手話通訳のための学習会のお話を要約して話していただき、それに基づき、地元としての通訳制度について問題や課題について話し合いました。

淡路では、淡路聴覚障害者センターが3市の委託を受け、通訳者を設置しており、参加したろう者から、4年前からは淡路市、南あわじ市に週1回センターの設置手話通訳が行っており、身近に相談できる体制ができて便利になっ

洲本市は手話言語条例がまだ

洲本市港 2-26
洲本市健康福祉館 3階



▲洲本市・淡路市、南あわじ市のグループに分かれ、意見交換。その後グループでの意見をまとめ発表をする。

たとの意見がありました。また淡路市、南あわじ市が制定されています。淡路市では手話言語施策推進委員会が開かれ、また市職員や教職員の研修が開かれたり、また南あわじ市では行事への手話通訳派遣件数が増えるなどの変化がみられます。

第8回社会生活教室

数字で分かる中国

今回も高校で教鞭経験の深い和田道宏氏に講師をお願いしました。

世界と中国の関係が分かるように中国に関するクイズで始まりました。

人口や国土で圧倒する中国は「世界の工場」今では「世界の市場」と言われ、GDP（国内総生産）はアメリカについて第2位となり経済が成長している。貿易相手国も世界80か国以上に及び、今では経済大国となり、大きな力を持っています。

しかし、一党独裁体制により情報統制や人権弾圧がひしめき、監視カメラは約4億台。AIによる顔認証で学歴や資産など個人情報管理されているなど生活のしづらさや、かつての一人っ子政策により、今では少子高齢化に突入。今後の人口減少が不安視され、経済への影響も心配されています。



盛りだくさんの内容で、参加者は知らないことの多さに驚いたり、感心したり。また我々の生活にも大いに影響があることを知り、関心を持つ必要を感じた時間でした。(瀬田)

学びとなりました。(辻)

画策定委員の委嘱を受けてるう協としての意見を集約し、伝えたりしています。

正規職員が3人もいる向日市では、スムーズに正規職員の増員が進んだ訳ではなく、欠員が出たときよろう者が毎日役所を訪問し、不便を訴え続けたというお話もあり、生活を便利にする、制度をよく変えていくためには待つのでなく、積極的に事情を訴えていく必要があることも

読み取り通訳の目的を再確認

登録手話通訳者研修会開催

1月27日(土)兵庫県聴覚障害者協会講師団の宇野はるこ氏を講師にお迎えして登録手話通訳者研修会を開催しました。内容は「読み取り通訳」。最初に「読み取り通訳の目的」について確認しました。また、日本語の力を磨かないと読み取りも上達しないとの話は、その通りで耳が痛かったです。「ろう者の言いたいことを理解して聞こえる人に伝えること。それを社会参加や自立に繋げることが目的であると改めて認識できた。」「国語力、手話力アップのために、これまで購入した書籍等を目につくところに移動させようと思った。」など感想をいただきました。(酒井)

中川原高齢者・障がい者地域 ふれあいセンター

☎ 656-0002
兵庫県洲本市中川原町中川原 222-2
TEL 0799-28-0990
FAX 0799-28-0992

初詣に「伊弉諾神宮」 へ行ってきました

1月5日(金)、利用者の皆さんで初詣に伊弉諾神宮へ行きました。



無事に作業が終えられたお礼と今年のタマネギの豊作、作業の安全を祈願しました。初詣後は、少し神宮内を歩いて散策しながら楽しく過ごしてきました。
(おのこのろの家職員 矢田)

新年大会開催にて 模擬店に参加して

1月14日(日)三田市総合文化センター郷の音ホールに於いて、第50回兵庫県ろうあ者新年大会兼成人祝いの集いが行われました。大会は久しぶりに1日を通して行われ、448名の参加がありました。

利用者さんと一緒に1週間前からクッキー・パウンドケーキなど焼菓子を製造し、販売に向けて準備を行いました。会場に着くとすでに沢山の参加者がおられました。急いで商品を陳列し、販売の準備をしました。10時に受付が始まると、おのこのろ屋の販売ブースを取り囲むように大勢のお客様が来られました。かご一杯に商品を入れられ、会計の順番待ちの列ができました。顔を上げる暇もなく、約30分で完売しました。沢山の方に購入して頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。

昼の休憩時間にも沢山のお客様が来られ、「もう完売したの?」「昼の休憩時に買おうと思っていたのに。」などの声がありました。これからもお客様に喜んで頂けるよう利用者さんと一緒に取り組んでいこうと思います。
(おのこのろ屋職員 山田)

イオンスタイル洲本より フレンチ3点贈呈

1月19日(金)、イオンスタイルさんより毎年クリスマスプレゼントをいただきます。今回はおのこのろ屋で販売するクッキーを作るときのハン



ドミキサーと製菓用温度計、利用者さんみんなです使うポットをいただきました。ハンドミキサーがあると腕への負担が減り、毎日の作業負担が軽減されて、かつ効率がよくなります。



また、プレゼントを持ってきてくださったときに、利用者さんとこやかに交流してくださいました。「どうやって話したらいいですか?」と最初は戸惑われましたが、紙に書いたり、簡単な手話を利用者さんが教えたり、また、ろうの会同士で伝えあったりしながら1時間ほど楽しく過ごされました。西田さんは、おのこのろの家にきてほしいと喜んでいました。

(おのこのろの家職員 興津)

洲本市より回地住宅周辺で 除草作業を依頼しました

1月中旬より、農業班は洲本市商工観光課様からの委託作業として、旧雇用促進住宅周辺の草刈りを行いました。寒い時期ではありましたが、ケガもなく安全に作業を終える事ができました。



農業班としては、今後も官公庁や企業様からの作業依頼をできるだけ請け負っていきたいと考えております。
(おのこのろの家職員 矢田)

神戸長田ふくろうの杜

兵庫県神戸市長田区神楽町5丁目3の14の1
〒653-0836 電話：078 798 7940
FAX：078 798 7941

AED研修を受けて

万が一に備える

1月14日(日)と21日(日)の2日間に分けて、神戸長田ふくろうの杜の職員研修として神戸市の消防局の職員に来ていただき、市民救命士の講習を受けました。施設にもAEDを設置して



ましたが、使い方を知らない職員も多く、万が一の時に使えるように、使い方を身につけました。人の胸を強く押すという行為や電

リズムよく胸椎圧迫2分ほどでも疲れます



講師の体験も交えて、お話を聞きました。

気ショックを与えるというのは怖く感じてしまいますが、やらなければ命を失ってしまいます。「骨が折れたとしても治るが、心臓が止まったら二度と戻らない、勇気をもって心肺蘇生法とAEDの使用をしてください」という言葉が印象に残りました。また、聞こえない職員が対応する時にはどうしたらいいか、字幕のついたAEDが必要ななど今後の課題も見つかりました。正しい知識を身につけて命を守るように繰り返し練習する事が大切です。定期的に研修が出来るように努めていきます。



Facebook ページ
毎週更新中!!

初詣にいきました！ 放課後等デイサービス

年明けの1月4日(木)みんなで長田神社へ初詣に行きました。神社へは小さい子どもは大きい子どもの手をつないで往復とも歩いていきました。中学生のお姉さんは小さい子どもに好かれていて「私と手をつなぐんだ!」と引つ張りだこでした。神社の中に、厄年の掲示があり、「本厄つてなに?」と支援員に聞く様子も。その後、みんなで今年のお願いを祈りました。結構長くお祈りしている子どももいました。みんな何をお願いしたのかなあ?今年も元気いっぱい過ごしていきます♪



絵馬も気になっていました♪



億万長者になつてやる 小4



ベンキようをがんばる 小1



栄光にかがやけ 小4



コマ 小2



新たな決意 小6



一年の計は元日にあり 中1